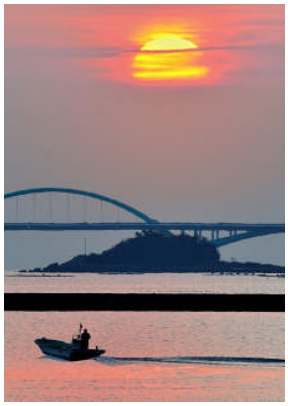


北九州テクノサポート通信

Kitakyushu Techno-Support

北部九州地域の産業発展に貢献する

NPO法人　北九州テクノサポート

〒804-0003北九州市戸畑区中原新町2番1号
TEL:093－873－1453　FAX:093－873－1453
E-Mail:npo-kts@npo-kts.org.jp　URL:http://www.npo-kts.org/

Vol.16
平成23年 冬号

新　年　の　ご　挨　拶

NPO法人 北九州テクノサポート　会長　小　川　　勝

2011年の到来です。新年おめでとうございます。

リーマンショックに端を発した不況も昨年は業界によっては若干の持ち直しが見られたようです。エコカー減税・補助金や家電のエコポイント付与などが功を奏し販売台数が大きく伸びました。しかしエコカー減税・補助金は予算の消化のため打ち切り、家電のエコポイントも半減するなどで昨年の駆け込み需要の反動がすでに出てきています。

世界的には米国の景気浮揚策にも疑問符がつけられ二番底の話や、中国もインフレ抑制に傾くなど好材料は見当たらない現状です。

このような状況の中でも必要なものは必要なので、特化した技術に裏打ちされた特異な製品・装置メーカーが一定の業績を確保しているのも事実です。

NPO法人北九州テクノサポートとして、中小企業の皆様にどのようにお役にたつことができるのか、活動として新規な技術開発に結び付く産学連携支援や、特徴のあるエコ製品（エコプレミアム認定製品など）の販売促進支援、環境経営や環境技術の構築・導入支援などのあり方を見直してご相談に応じる体制を整えています。

昨年は理事の改選で新しい理事5人が選任され活動を始めましたが、この刺激で新しい事業への取組みも始まり実績を積んできました。

具体的一例として、（財）西日本産業貿易コンベンション協会殿との協働で中小企業テクノフェア出展企業（川上企業）と地元企業（川下企業）との製品・技術のマッチング（販売支援）を実践いたしました。この一環として該協会殿のご厚意により商談の拠点となる展示ブースを開設しPRも兼ねた活動を展開することが出来ました。一昨年度の九州工業大学殿からの受託事業に続いての大きな活動が展開できました。エコアクション21（環境経営システム）の普及や産学連携、中小企業支援などに関し関連機関のご厚情に深く感謝申し上げる次第です。今年度はすでに3件の大きな事業について検討中であり、皆様のお役にたてる機会が到来すると信じています。

今年は卯年です。ウサギは平和の象徴としてその絵がよく用いられます。北朝鮮、アフガニスタン、ガザなど平和を脅かす状況がありますが、「平和なウサギ」の年であってほしいものです。　本年もよろしくお願い申し上げます。

Topics.1　新規事業が活動する

「中小企業テクノフェアin九州」及び「川上・川下ネットワーク構築事業」の支援

-（財）西日本産業貿易コンベンション協会から受託-

昨年に続き今年も「中小企業テクノフェアin九州（29社参加）」の支援事業の受託に加え、昨年は採択されなかった経済産業省外郭団体「（独）中小企業基盤整備機構」の上記構築事業の再申請に協会と共にNPO-KTS（石川副会長）は、東京プレゼンまで同行した。　見事に全国16チームのひとつに採択された。

「川下企業OBのコーディネーターによる展示会活用型マッチング・スキームの新たな展開」である。昨年の実績が大きな成果につながった。KTSとして大きな責任が伴うが期待の事業となった。

従来の訪問主体活動から「川下と川上のマッチング3000万円目標の商談」にまでつなげる、ニーズ・シーズ調査、マッチング・プロモーション・ボード（計画表・調査報告書、KTSのHPに掲載し内外関係者の見える化を行う）、川下企業訪問、展示会におけるフォーラム開催・総動員によるマッチング活動及び2月までのフォローと結果発表までを担う。会員公募の結果16名が協会のコーディネーター委嘱を受けてスタートした。

両ボードとフォーラムは激論を繰り返して最大の課題を乗り切り大きな成果を発揮した。結果は訪問企業108社、展示企業紹介延べ378社（展示企業1社あたり川下企業最大34社、最小3社紹介）、川下企業展示会来場企業59社、展示社見学延べ188社（展示企業1社あたり最大川下企業15社、最小川下企業1社見学）であり、昨年に対し展示企業紹介数は5倍弱、訪問企業3倍強、且つすべての企業を紹介した（昨年は紹介できなかった企業が25%もあった）。

最大目標の展示会での商談・面談件数は59件、商談ブース利用13件、見積の可能性や展示企業同士の共同事業など27件（即成立の可能性1件）にも達した。

その後のフォローの成果は11月初め現在、成立2件、可能性見積金額が目標額以上に達する（KTSコーディネートが多い）。

最もうれしいのはフォローに訪れたある展示企業はこれまでにない手ごたえを感じているという。アンケート調査でも次期展示会参加希望が昨年40%弱に対し今年は60%強の約1.5倍にのぼった。

然し、課題は山積であり、十分に責任を果たせず申し訳ない展示企業もある。KTSは展示企業をもっと知る工夫を行い、KTSの枠を超え商工会議所などと連携して展示企業に更にマッチした新しい川下企業の紹介に果敢に挑戦すべきである。

協会の絶大なるご高配によりKTSの問題を機構と調整して頂き、KTSメンバーには、一致団結して難題に対処していただきました。深く々々感謝とお礼を申し上げます。2月のフォロー・結果発表会まで皆さんともども頑張りましょう。

謹賀新年　　平成二十三年　正月　理事一同

会　長　小川　勝
副会長　石川　浩、小林敏郎、重藤將美、安東　静
理　事　後藤禎二、藤原成種、磯村福義、石井 剛
影山隆雄、藤原利久、山本倖暉、松隈 齊
吉開 悟
監　事　増田幸一

H22年度　理事一同

新年の挨拶

平成23年　新年の挨拶　　北九州市長　北橋 健治

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、自治基本条例の制定、非核平和都市宣言の実施など、市民とともに取り組むまちづくりに大きな進展がありました。

本年も、こうした市民との協働を重視しながら、市の基本構想に基づいた施策を戦略的に進めていきます。

特に、保育サービスの充実など子育て・教育日本一を実感できる環境づくりや、高齢者支援の充実、市民の健康づくりに取り組みます。

また、市民の安全・安心の確保では、いのちをつなぐネットワークの充実や自治会・ボランティア活動の支援など地域コミュニティの活性化などに努めます。さらには、暴力追放運動も強力に推し進めます。

一方で、地域経済の活性化も重要です。経済・雇用対策に引き続き取り組むとともに、本市の強みである「環境」と「アジア」をキーワードとした緑の成長戦略に重点を置いて取り組みます。具体的には、次世代の環境技術を核に様々な実証を行うスマートコミュニティ創造事業などにより省エネ・低炭素のまちづくりを全国に先駆け進めるとともに、環境に配慮した質の高い生活空間づくりを推進します。また、アジア低炭素化センターを中心とした環境技術の海外輸出支援、中国・韓国諸都市との経済連携の強化などに取り組みます。

さらに今年は、九州新幹線が全線開通します。本市においても、小倉駅の南・北出入口の市民公募による名称変更を行うとともに、B級グルメの祭典「九州B－1グランプリ」を始めとする集客プロモーションなどを通じて、本市の魅力を発信していきます。

厳しい社会経済情勢が続いていますが、本市の強みを最大限に発揮するとともに、様々な環境の変化に柔軟かつ迅速に対応しながら、市民との協働に取り組み、北九州市の未来に向けた歩みを続けてまいります。

新春放談　北九州の新年を語る

■株式会社 安川電機　　取締役会長　利島 康司

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、中国をはじめとするアジア各国の好景気にささえられ、リーマンショックの影響から脱却できた年でした。しかし、一方で円高などの経済環境がつづき、輸出割合の多い企業にとっては、大きな課題を抱えた年明けとなりました。このまま円高状況が進むようであれば、海外への進出を余儀なくされると言わざるを得ませんが、私は、ただ単に海外に移すのではなく、国内では新たなものを生み出し、需要を喚起し続けなければならないと思っています。

私は昨年の11月に北九州商工会議所の会頭職を拝命し、就任の際に「“市”農工商で連携し、北九州を豊かなにぎわいのある街にしたい」と表明させていただきました。北九州には、素晴らしい産業の歴史があり技術の蓄積があります。また、豊かな自然や著名な農産物もあります。地理的にも交通の要所であり、発展著しいアジアの近くにあります。これらの高いポテンシャルをいかし、市民とともに工業や農業そして商業が連携し共に発展していきたいと願っています。

KTS（北九州テクノサポート）も技術の連携という意味で大変重要な役割を担っておられます。北九州から新しいものを生み出すための原動力となっていただけることを、心から祈念しております。さまざまな連携を通じてイノベーションをおこし、この時代のうねりを乗り越え、さらに元気な北九州へと飛躍する年になればと願っております。さあ、これからが正念場です。共に頑張って参りましょう。

最後になりましたが、皆様方のこの一年のご多幸を心より祈念いたします。

■TOTO株式会社　　副社長執行役員　伊藤　健二

新年　明けましておめでとうございます。

リーマンショック後の2年間は世界経済の低迷が続きましたが、2010年後半には何とか底を打った兆しが見え始めました。各国の情勢や円高などまだまだ不安材料がありますが、金融や内需の動きの中には明るい材料が随分見えてきてことから、本年は厳しい時代に培った力を一気に爆発させ、大いに上昇が期待できる年になると確信しています。

昨年、日本中が沸き立ったことのひとつに、鈴木章・北海道大名誉教授と根岸英一・米パデュー大特別教授のノーベル化学賞ダブル受賞という快挙があります。偉大なる研究成果の原点は、「自然を直視する謙虚な心」と「小さなヒントをも見逃さない注意力と旺盛な研究意欲」にあるとお二人は語られていましたが、正に技術向上の原点はここにあると思います。

「技術の街　北九州」は、過去の環境公害の経験を糧に環境モデル都市へと変貌を成し遂げた、世界的にも稀な都市です。公害を直視し乗り越えた実績から言えば、まさしく「謙虚な心」と「旺盛な研究意欲」を兼ね備えた街と言えます。その北九州市への期待値は高く、経済成長が続くアジア地域の持続可能な開発の実現に向けてもの言う役割を担うことが必要になってくるでしょう。そのためにもアジア各国の模範であり続ける努力を継続しなければなりません。

当社TOTOも、昨年、「TOTO GREEN CHALLENGE」を掲げ、環境貢献について「商品・サービス」「ものづくり」「社会貢献・ひとづくり」の3軸の取り組みを今まで以上に推進していくことを宣言しました。今年も、地元企業として寄与できるよう尽力してまいります。

北九州テクノサポート会員の皆様のおカをもって、環境都市北九州の一層の飛躍の一年になりますよう祈念申し上げます。

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■賛助会員の広報コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

NPO-KTS四季報Vol.16広告1-2

TAIKO 大光炉材株式会社 REFRACTORIES CO.,LTD.

経営理念【社是】

私たちは、国家社会を支える重要な仕事をもつことを誇りとし、きびしい自己反省とたゆまぬ創造開発によって会社の発展と人間幸福の実現に努力します。

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・確実なレスポンスをモットーに、独自の技術開発力を武器にダイナミックな展開をしています。

大光炉材株式会社

本社：〒804-0054 北九州市戸畑区牧山新町1-1

TEL：093-871-1631（代）　FAX：093-883-2151

http://www.taiko-ref.com

TAKANO KOUSAN

産業廃棄物処理
プラスチックリサイクル
溶剤リサイクル

高野興産株式会社

本社 北九州市八幡西区御開2丁目5-1　TEL 093-691-2790

北九州エコタウン工場　北九州市若松区響町1丁目62-19

URL：http://www.takano-k.com/

新春随想

平成23年の新春随想　財団法人北九州産業学術推進機構 中小企業支援センター長　江副 春之

新春のお慶びを申し上げます

昨年度来、回復の兆しを見せ始めた国内経済も、急速に進んだ円高等の影響により先行き不透明な状況となってきており、北九州市でも地域企業の経営に少なからずその影響が及んできているようです。

また、連日新聞紙上をにぎわせているのが、自動車産業をはじめとする大手製造業のアジアをはじめとする海外シフトです。これは今に始まったことではありませんが、国内市場が縮小していく中で急速な国際経済の変化に対応するこれらの動きは、待ったなしで地域経済にまで及んでくるといっても過言ではありません。

一方で、アジア地域を中心とした新興国の発展に伴い、大きなマーケットが誕生していることも事実であり、アジアに近いという優位性を生かして新たな展開を図っていくチャンスも生まれてきていると思います。

また、平成20年に国の「環境モデル都市」に選定された本市では、昨年東田地区におけるスマートコミュニティ創造事業が国の採択を受けて事業が動き出すとともに、「環境国際戦略総合特区」構想を国に提案し、「環境」で地域の活力を創造することに注力していくことにしております。これからは「アジア」と「低炭素化」をキーワードに、地域の各企業がその強みを生かして発展していく道筋をつけていかなければなりません。 FAISでは、学研都市を中心に低炭素化技術の研究開発拠点を形成するとともに、その成果を地域企業が活用して新たな事業展開を図れるような取り組みを行うことといたしました。

また、ベンチャー企業の官民による支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ」の有志の企業が「エネルギーマネジメント協会」を設立し、省エネの推進に係る活発な事業連携活動を行うなどの新たな動きも出てまいりました。

FAISでは、新しい技術を生かした競争力のある事業の創出や企業同士の連携を支援して、地域企業の更なる発展に微力ながら貢献してまいりたいと考えています。長い「ものづくり」の歴史を持つ北九州が培った人材の宝庫である、北九州テクノサポートの皆様にも今後ともお力添えをいただきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

新春放談　北九州の新年を語る

■日産自動車株式会社　　九州工場長　児玉 幸信

新年あけましておめでとうございます。

私共、日産九州工場は、周防灘に面した福岡県苅田町に位置し、1975年に九州初の自動車生産を開始し36年目を迎えます。改めて、これまで長きに亘り支えて頂いた地域の皆様方に感謝申し上げます。

また　2009年12月より日産車体九州株式会社（日産グループ）が、弊社敷地内で操業を開始しました。

同様のご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

九州工場は、2010年7月16日には環境に優しいクリーンディーゼルエンジンを搭載したエクストレイル（オートマチック車）を発表し、11月8日にはアイドリングストップ機能を搭載した新型セレナを発表いたしました。 九州工場は、日産生産方式（NPW）により、多様化するお客様の要望に柔軟に対応し、コストパフォーマンスの高い、確かな品質のクルマをお客様へ約束通りの短い納期でお届けする事を目指しています。

また、敷地内には専用埠頭があり、九州工場で生まれたクルマは国内のみならず世界中のお客さまに送り出しています。そこには、1人ひとりの創意から生まれる工夫や改善が活かされ、深い愛情が生産されるクルマの随所に注ぎ込まれています。

最後になりますが、我々、九州工場は、昨年10月に分社化の発表を致しました。日本のモノづくりが、今後もグローバルに日産のモノづくりの中心的役割を果たしていくためには、高級車や電気自動車など付加価値の高いクルマだけでなく、小型車も日本で造れるようなコスト競争力を持つ生産拠点を生み出していければ、国内100万台レベルの生産が可能となります。

昨今の円高や新興国企業の台頭など取り巻く環境は厳しいですが、その中で九州は、アジア圏をリードする量産工場、輸出拠点としての役割を担うため物流費などを含めた総生産コストの最適化を実現させていきます。

本年も引き続きご指導ご鞭撻をお願いし新年のご挨拶とさせて頂きます。

北九州地域のモノづくり企業の主力商品紹介

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■賛助会員の広報コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

NPO-KTS四季報Vol.6広告3-4

福祉・医療器具のリーディングカンパニー
ARIZONO
株式会社 有薗製作所

当社は、人生にやさしい 福祉・医療器具の総合メーカーです！

障害児・者及び高齢者の必要とする義肢装具サービスの提供をします。

代表取締役　有薗 央

〒805-8538北九州市八幡東区東田1-7-5

TEL:(093) 661-1010　FAX:(093) 661-1670

URL http://www.arizono.co.jp/top/

カースル

CASLE CO., Ltd.

2度減システム

地球高温化対策、CO2削減を目的として壁面緑化「2度減システム」を推進します！

代表取締役

渡邊 健司

Kenji Watanabe

カースル株式会社

URL http://www.casle.co.jp

〒800-0115　北九州市門司区新門司1丁目9-6　TEL:093-481-1212

ISO 14001 認証取得

新春随想

平成23年 の新春随想　福岡県　商工部　新産業・技術振興課　課長　小島 良俊

新年明けましておめでとうございます。

NPO法人北九州テクノサポートの皆様におかれましては、日頃より福岡県の産業振興に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。皆様は、国内有数のものづくり拠点である北九州地域を中心に、「モノづくりの支援を通じて産業振興を図り、まちづくりに貢献する」との理念の下、経営、技術開発、産学官連携などの支援活動に意欲的に取り組んでおられます。

昨年は、「世界の環境首都」北九州市にふさわしく、エコアクション21の認証取得支援などを強力に推進されるとともに、本県の事業につきましても、「家庭用燃料電池分野への地元企業の新規参入支援」など、会員の皆様に多大なる御協力をいただきました。 **小川会長をはじめ、会員の皆様に心から感謝申し上げます。**

わが国の産業を支える製造業の強みは、ものづくりの技術や技能の優位性にあります。県では、ものづくり企業の皆様の技術支援の拠点として、北九州市の「機械電子研究所」、筑紫野市の「化学繊維研究所」、久留米市の「生物食品研究所」、大川市の「インテリア研究所」の四つの工業技術センターを設置しています。工業技術センターは、企業の皆様にとって、身近で信頼できるパートナーとして、技術力の向上と新しい技術の開発に向けて一層努力を重ねてまいります。

また、ものづくり産業の振興に携わる産学官の団体・機関で「福岡ものづくり産業振興会議」を組織し、高度技能者を生産現場に派遣し、県内中小企業が抱える技術課題の解決を図る「ものづくりアドバイザー事業」など、ものづくり企業の支援策を推進しています。北九州テクノサポートの多くの会員の皆様にも「ものづくりアドバイザー」に御就任いただき、御活躍いただいているところです。

県といたしましては、これらの事業を通じて引き続きものづくり企業の支援に努めてまいります。

本年が、皆様にとって明るく活力に満ちた素晴らしい一年になりますよう心からお祈りいたします。

新春放談　北九州の新年を語る

■九州工業大学　学 長　松 永 守 央

新春のお喜びを申し上げます。

産業活力再生特別措置法が施行されて11年が経過し、産学官連携や知的財産活動の指標となる数値は着実に増加しました。研究支援者数も欧米に比べて依然低いものの、着実に増加する傾向にあります。九州工業大学でも、この間に共同研究件数と共同・受託研究費が数倍以上になり、学外機関との連携が活性化しました。

日本経済の地盤沈下を考えると、産学官の連携活動が十分に効果をあげたとは言えません。組織やシステムの整備に終始する体質や、表層的な成果を評価する硬直した姿勢がその根源にあります。形式主義を排し、散蒔き体質から目利きによる集中投資に移行し、市場予測と産業規模に基づく適切な支援を評価する産学官連携を追求しなければ、国難とも言うべき現状は打開できないと考えます。

現状を打開する力の根源は人材です。レビューアのレベルアップによる事業化感覚の高度化が必須条件です。世界標準化を強く意識した活動と、グローバルなネットワークを有する人材の育成も不可欠な要素です。特に、既存の日本的な感覚を逸脱した国際感覚豊かなプロデューサやコーディネータを育成することが肝要です。北九州テクノサポートの皆様にもこのような意識の強化をお願いしたく存じます。

韓国企業は日本発の基礎研究を活用した迅速な製品開発を実現し、中国は基礎および応用研究の両面からわが国を凌駕しつつあります。もはや躊躇している余裕はなく、考えられる戦略はすべて実行すべきです。本学は北九州のすべての機関と連携して、地方が国家をリードする活動を推進する覚悟ですので、北九州から日本のブレークスルーを目指す活動への

■北九州市立大学　国際環境工学部長　梶原 昭博

新年あけましておめでとうございます。

2001年に国際環境工学部が北九州学術研究都市に設立されて10年目となります。この間，4学科体制から「エネルギー循環化学科」「機械システム工学科」「情報メディア工学科」「建築デザイン学科」そして「環境生命工学科」の5学科に再編し，大学院も2専攻から「環境工学」「環境システム工学」「情報工学」の3専攻に再編し、教育および研究の更なる充実を図っているところです。

さてバブル崩壊以来，我が国の産業はかつての輝きを失いかけ，科学技術が追われる側から追う側へと立場が変わり，また2008年のリーマンショック直後の急速な景気の悪化は，雇用情勢に対して深刻な打撃を与え，大学生の就職難や高い失業率など依然として厳しい状況が続いています。一方では地球規模でのグローバル化が経済や社会だけでなく教育や研究面などでも進んでいる今，懸念されるのが若者の海外離れです。若者の安定志向も一因と考えられますが，地球規模での世界標準化の基盤の上で欧米だけでなく急速に発展するアジア諸国と互いに伍して行わなければならない時代だけに気になる現象です。先日のノーベル化学賞受賞は最近の学生の無気力，海外離れ，理科離れなど大学にとって暗いニュースばかり続く中で，久しぶりの明るいニュースで若者にとって大きな刺激になったことと思います。このようにかってない厳しい時代だからこそ，今後10年，20年を見据えた工学分野の高度人材の育成と社会への供給の仕方が重要となっています。

2011年は北九州市立大学国際環境工学部にとって次の新しい10年のスタートであり，高度人材育成や産学連携，地域貢献など地元の発展に向けて新たな気持ちで取り組んで参りたいと願っています。

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■賛助会員の広報コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

NPO-KTS四季報Vol.16広告5-6

Kamigakigumi.inc

株式会社　神垣組

神垣組(かみがきぐみ)は左官工事と、環境に配慮したモルタル・コンクリート製品の開発製造を行う会社です。

■私たちは、建築左官の伝統的技術と新素材の開発で、今後とも社会に貢献し、次世代にこの技術を残していきたいと考えます。　URL　http://www.kamigakigumi.co.jp/

代表取締役　神 垣 三 次

〒819－0165　福岡市西区今津5413－10

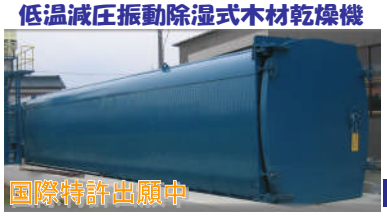
TEL(092)806－6070　FAX(092)806－6070

㈱加来野製作所

各種新製品紹介

新製品　世界初

低温減圧振動除湿式木材乾燥機



国際特許出願中

小型万能乾燥機

オガ粉製造機

バーク粉砕成形機

木資源リサイクル製品

リサイクル製造プラント

http://www.kakuno-seisakusyo.com/

㈱ 加来野製作所　福岡県豊前市大字宇島76-19

TEL:0979-82-3888　FAX:0979-82-1509

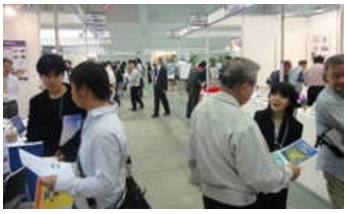
Topics.2　川上・川下企業ビジネスマッチング事業

「ビジネスマッチングに本領発揮！2年目を迎えたコラボレーション大躍進」

財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会
事業第二課　田中建次　記

ものづくりに積極的に取り組む中小企業が、自ら培った技術や製品を一堂に展示実演し、新たな販路開拓と技術交流を目指す「中小企業テクノフェアin九州2010」を、10月13日（水）～15日（金）の3日間西日本総合展示場で開催した。九州・山口から意欲的な中小企業29社3団体が勢揃いした。このフェアは「ものづくりの街　北九州」で19回目を迎える歴史を刻んでいるが、経済が低迷するなかで顧客満足のために顧客視点で改革をし続けていかなければならないのは展示会も例外ではない。幸いにも今年は、中小企業庁「平成22年度川上・川下ネットワーク構築事業」に、当協会が初めて採択された。これを受け出展する中小企業が最も期待するビジネスマッチング、その強化に北九州テクノサポート（以下KTSという）と2年目となるコラボレーションのもと強力に取り組んだ。ここではその舞台裏の一部をご紹介したい。

折しも今年は記録的な猛暑となった夏、活動方針を具体化するKTSメンバーと当協会が参集した会議において、その暑さに拍車をかける議論が続いた。それは、マッチングの成果目標値のハードルが高すぎるという反発であった。また、ここにきて役割分担の明確化に乏しいという指摘であった。川上（中小企業）と川下（大企業）の「橋渡し」と「すり合わせ」を、責任をもって担うKTSのコーディネーターにとって、しごく当然の意見かもしれない。意見のやり取りに会議机を叩くまでとはならなかったが、喧々諤々の様相となったのは確かであった。



ここで教訓。　1）議論のぶつかり合いの先にあるのは顧客の満足に結びつくものであること
2）目指す方向を真に共有化するものであること
3）忘れてならないのは「全ては顧客のため」を議論の中心におくこと

かくして迎えた展示会本番。序盤のKTS主導による「川上・川下ネットワーク構築フォーラム」の開催、そして会期を通して地元大手企業と中小企業の「橋渡し」と「すり合わせ」が、KTSからコーディネーター16名総動員によって精力的になされた。これまで大手企業のOB技術者としてその人脈と技術的知見が大いに発揮される活躍の場に転じた。出展者の声を聞くと、これまでにない商談機会が得られたというものであり、KTSの活動はとても頼もしく映ったことに間違いない。マッチングの成果実績をみても想定以上の期待できる状況が見込まれ、まさにKTSによる「ビジネスマッチングに本領発揮！」であった。

■川上・川下ネットワーク構築フォーラム

・基調講演にTOTO（株）常務執行役員
加藤正行 氏
・川上企業講演として
㈱ワークス代表取締役社長三重野計滋 氏

■「橋渡し」と「すり合わせ」

喧々諤々の議論を交わして推進してきたことが、功を奏したものとなった。今回の教訓を生かし、次回20周年となる記念すべき「中小企業テクノフェアin九州2011」においても、さらなる新たな取り組みにチャレンジしていきたい。

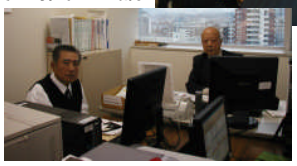
今回の世話役として推進されたリーダー藤原利久理事、そしてKTSの皆様、本当にありがとうございました。　（終）

エコアクション21地域事務局福岡

エコアクション21は発足以来5年有余となり、ガイドラインの改定、制度のあり方検討など、見直し作業が進められています。

エコアクション21の知名度はかなり浸透してきており、全国ではおよそ6，000事業者が認証を取得しています。当地域事務局福岡の取り扱い事業者数も200事業者を超えました。うち北九州市の認証事業者は100数社となっています。とはいっても全中小企業者数からいえばまだごく一部です。

北九州市及び福岡県では、認証取得者に対する入札時の加点優遇措置だとか、融資優遇措置が講じられています。



皆様方のお知り合いの事業者に対し、エコアクション21の認証取得をお勧めください。当地域事務局福岡宛、ご連絡・ご紹介をいただきましたら懇切にご説明いたします。

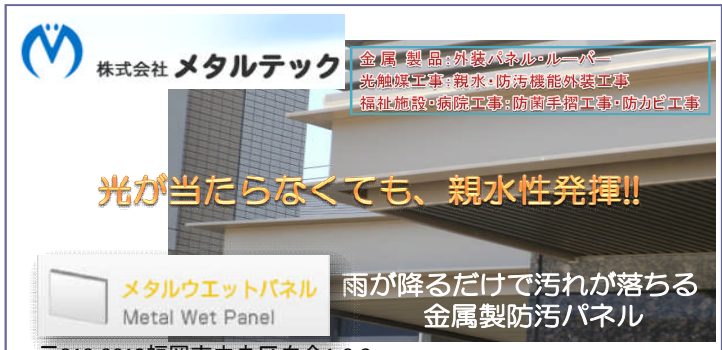
よろしくご協力のほどをお願いいたします。

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■賛助会員の広報コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞
NPO-KTS四季報Vol.16広告7-8



〒810-0012福岡市中央区白金1-9-3
Tel:092-523-1513 Fax:093-523-1532　URL http://www.metaltech.jp/
E-mail:metaltech@poplar.ocn.ne.jp

〒812-0007
福岡市博多区東比恵3丁目4番6号
お問い合わせ ご質問・ご相談はお気軽にお寄せください
092-415-4518　eigyou-bu@nishii.co.jp

Topics.3　川上・川下ネットワーク構築フォーラム

中小企業テクノフェアin九州2010　フォーラム・交流会開催

昨年に引き続き本年も(財)西日本産業貿易コンベンション協会に協力し、「中小企業テクノフェア in 九州2010」開催に当りプレ・マーケティングをはじめとした販路開拓に取組むと共に開催期間中に会場内で行われる「川上・川下ネットワーク構築フォーラム」の企画・推進をKTSが担当した。

先ず基調講演には川下企業を代表してTOTO(株)常務執行役員 加藤正行 様に「川下企業と川上企業のビジネスマッチングの課題」につきご講演をお願いした。また川上企業として(株)ワークス 社長 三重野計滋 様に昨今の国際競争での中小企業の苦戦につきご講演をして頂くことにした。その後に今回の展示企業からの代表企業8社による自社商品・技術についてのプレゼンテーションを実施した。

日 時：10月13日(水)　14：00～16：30

場 所：西日本総合展示場・新館　展示場内セミナー会場B

■プログラム：－

(1)基調講演　加藤正行　TOTO(株)常務執行役員

「川下企業と川上企業のビジネスマッチングの課題」として、加藤常務による基調講演は事前に主要企業(トヨタ九州㈱、ダイハツ九州㈱、㈱戸畑ターレット工作所等々)を訪問して事例研究を行いそれに基づく講演で非常に内容の濃いものであった。トヨタ九州は地場企業25社に対してIEマン4名による指導会を実施している等の紹介があり、3つの視点(川上企業・川下企業・行政)からの提案を行って頂いた。

特に日本の企業150万社の99.2%が中小企業であり、従業員2500万人の68%を占めており、中小企業が技術立国として自信を持ち、世界へ打って出る事が大事であると締められた。

(2)川上企業講演　三重野計滋　(株)ワークス 代表取締役社長

「激化する国際競争に打勝つための中小企業の戦略」として、 三重野社長は、ものづくり中小企業を代表して，昨今、韓国を初めとした新興国の追い上げを受け、苦戦を強いられている現状の紹介があった。

これまで大学等との共同研究を通じて何とか新技術開発によりナノマシニング加工分野で独自の分野を切り開いてきたが、どんどん追いついてこられておりここで技術の複合化(めっき技術・コーティング技術・ロボット技術・生産技術 等々)によって真似の出来ない独自技術を創り上げていきたいと考え、東京新宿へ賛同企業との交流のための事務所を設けていること等々の打開策の一端の紹介があった。

(3)展示企業の自社商品・技術プレゼンテーション(代表 下記8社)

①㈱GTスパイラル ②(有)かのう ③(有)栗山機工作所

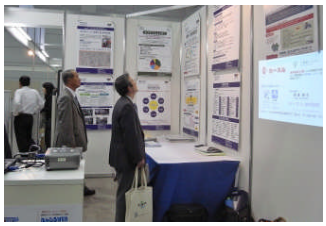
④㈱A・R・P鹿児島事業所　⑤(有)カミテック

⑥㈱ナノソリューション ⑦㈱タケシマ ⑧㈱シュア・プラス

最後にNPO・KTS小川会長からの閉会の言葉があり終了し、その後、同じ会場で交流会(17：00～18：00)が開催された。フォーラム参加者は91名、交流会参加者51名であった。

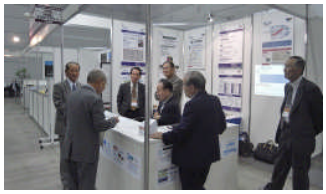
NPO-KTS展示ブースの紹介

NPO法人 北九州テクノサポート 展示ブース会開設



本年度も昨年に引き続き、主催者である(財)西日本産業貿易コンベンション協会様のご好意により平成22年10月13日～15日の3日間実施されました「中小企業テクノフェアin九州2010」において、「北九州テクノサポート展示ブース」を出展する事が出来KTS会員一同感謝しております。

出展の目的は、北九州テクノサポートの知名度向上と同協会から委託された「中小企業ビジネスマッチング事業」を支援することにあります。展示物は、KTSの概要を理解していただくパネルが主体で、過去の実績や会員の出身企業・所持資格、トピックスとして金属プレス成形金型研究会の「ものづくり連携大賞受賞」と「環境配慮型製品のビジネス支援」活動など9枚を展示した。



また、プロジェクターによるKTSの紹介と賛助会員企業様並びに協力企業様の広告を作成し掲示した。KTSのPR資料として、パンフレット、会報、更には賛助会員様の会社案内・製品カタログなどを配布しました。

ブース来場者は百数名にのぼり多様な方々が訪れた。その内容は、北九州地域の企業はもとより、鹿児島・熊本・佐賀・山口・広島・香川・兵庫・東京などからも北九州市の環境技術等に関心を示し来場していた。

また、海外からは韓国・中国・ベトナムなどからで、目的は日本企業の技術系OB、大学の研究内容調査、最新の特許技術等を求めて来展していた。

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■賛助会員の広報コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

NPO-KTS四季報Vol.16広告9-10

限りある資源を未来に 地球環境に貢献

株式会社コーセイジャパン

LCC(ライフサイクルコスト)の優れた省エネ！

当社は省エネ型電子安定器の開発メーカーです。
照明の明るさを落さず**35%～50%**の省エネが
可能な商品を取り揃えております。
低コストで長寿命(3年保証付)の安心省エネ！

■LED蛍光灯よりも安全で低コストです。

蛍光灯の省エネに
ネオルックＳＰ

水銀灯の省エネに
スタールック

〒800-0313　福岡県京都郡苅田町磯浜町1丁目16-9
TEL：093-436-6136　FAX：093-436-6141　http://www2e.biglobe.ne.jp/~neolux

The Actual is Limited
The Possible is Immense
MATSUSHIMA

代表取締役社長　松 島　徹

株式会社 松島機械研究所

本社　北九州市八幡西区大字則松461　〒807-0831
■TEL 093-691-3731　■FAX 093-691-3735
■http://www.matusima.co.jp

■完全国産化した、
パルスレーダー式マイクロ波レベル計

中小企業が期待するKTSの専門Gr活動紹介

■産学連携支援Grの活動　　Gr長　影山　隆雄

九州工業大学の教育研究高度化に係わるデータベース整備と研究開発体制構築へのコーディネーター派遣は昨年度末で終了したが、会員1名が大学のコーディネーターとして継続的に活動をしている。

また、九州大学大学院工学府「ものづくり工学研究センター」中核人材育成コース（MOM講座）への支援活動については、会員1名が取り纏め役で活動中である。

さらに福岡ものづくりアドバイザー事業については、今年度、これまでの技能主体の3名に新たに技術主体の会員10名が加わり、企業の技術高度化ニーズに応える活動を展開している。

□「北九州TLO」ライセンス活動（FAISより受託）

北九州に立地する大学が研究開発した特許をこの地区の中小企業に紹介・普及する活動で、今年度は3名のKTS会員が活動中です。

また、一方では、個人的に会員5～6名が「特許流通アソシエイト」として活動している。 地元の中小企業者からは、新しい特許・技術情報が提供されるので感謝されている。

■ISO/EA21支援Grの活動　　Gr長　小川　勝

（1）企業支援及び普及活動は、北九州市・福岡県とエコアクション21地域事務局福岡の共催によるエコアクション21普及セミナーが4回実施され、それぞれに講師派遣した。

また、これを受けてグループ研修（コンサル）延10回にコンサルタントとして会員の審査人を派遣した。

一方で、北九州建築業協会のエコアクション21認証取得グループ研修にコンサルタントを派遣した。

（2）エコアクション21審査人・コンサルタントとしてのレベルアップのための相互研修会、一泊2日の合宿を行った。

■販売支援Grの活動　　Gr長　山本　倖暉

本年度会員17名で新規に発足し、活動としては「川上・川下ネットワーク構築事業」（西日本産業貿易コンベンション協会委託）としてTopics.1に記載しているように現在継続中の事業と、6月に契約した中小・ベンチャー企業が抱えている製品の販売開拓を実現するとともに、その製品を顧客の手許で価値を生む商品へと仕上げることを含めて、企業の成長を支援する事業で、これから本格的に取組もうとしている「OB人材を活用したブラッシュアップサポート事業」（九州NBC）がある。

また、市環境局と市内企業が開発・製造するエコプレミアム商品や提供するサービスの販売促進支援を行う「エコプレミアム商品販路開拓事業」（環境モデル都市推進室委託予定）を企業、経済団体、専門家、行政及びKTSの協力のもとに普及拡大と新たなる環境産業の創出を図るべく、来年度からスタートするため現在事業を企画中です。

■環境技術支援Grの活動　　Gr長　藤原　利久

地球、アジア規模で環境・リサイクル・省エネ・新エネルギー活動が北部九州において、それもKTSの活動本分である中小企業のビジネス支援も重点に行なわれております。正にKTS環境技術Grの活躍の場であります。今まで以上に北九州市や商工会議所、上記の諸団体との交流や会員（候補：K -RIP）になるなど先ずは積極的対外交流とKTSのアピールを行い、KTS内ではEA21等との連携や環境・省エネ診断資格等の体制づくりそして環境技術Gr内の交流も行い、低炭素化社会へ少しでも貢献すべく活動したいと思います。

■IT支援Grの活動　　Gr長　安東　静

（1）中小企業へのIT支援事業として、小倉南区企業のホームページ更新作成の支援をした。Excelを活用した業務改善活動を実施した。また、川上・川下ネットワーク構築事業の支援として、活動状況伝達のため、当NPOホームページにページ開設し、逐次報告書を掲載中。（2）NPO・KTS内IT支援事業として、当NPOのホームページについて、定款の更新、会員の寄附金の紹介欄の追加、本年度の活動方針・昨年度の実績を通常総会の決議として、改訂した。

北九州地域のモノづくり企業の紹介

■北九州地域の産業発展を支える中堅・中小企業を紹介します。

■協力会員の広報コーナー

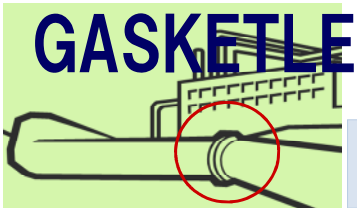
＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

NPO-KTS四季報Vol.16広告11-14

GL PIPE JOINTS 好評です

GASKETLESS管継手

■パッキンのいらない



新製品賞 '99中小企業 優秀新技術新製品賞	福岡県知事賞 中小企業先端技術展 福岡県知事賞

The Creative Corporation

株式会社 大 創

■北九州市八幡東区西本町4-5-1

TEL:093-681-7195/ FAX:681-7196

E-mail:pd-otsuji@daiso.bz

URL http://www.daiso.bz/

□ご質問・お問い合わせは→専用FAX:093-681-7197

自動車用ボディ関係の板金プレス金型設計・製作で世界をリードする金型専門メーカー

株式会社ウチダ UCHIDA

株式会社 ウ チ ダ

代表取締役社長　内田 末男

九州工場 〒823-0011 福岡県宮若市宮田５４２－３８

TEL (0949)33-3145 FAX (0949)33-3146

本　　社 〒574-0055大阪府大東市新田本町１２－６

TEL (072)874-3377 FAX (072)874-3839

E-mail：info@uchidanet.co.jp

URL ：http://www.uchidanet.co.jp

微美 創造企業

MEMS SOLUTION

【事業：超精密金型部品の製造】

我社は、"超精密"にこだわり、お客様に喜んで頂ける製品を、常に作り続けることを経営の柱にしています。 "どうしたら、急速に変化する市場ニーズに対応できるのか？"思考を繰り返し、知恵を出し、現状の枠にとらわれない広い視野で、夢のある物作りを実現して行きたいと考えております。

これからも「お客様の喜び＝我社の喜び」を追い続けていきます。

WORKS Co., Ltd.

株式会社ワークス　代表取締役　三重野計滋（みえの　けいじ）

〒811-4321 福岡県遠賀郡遠賀町大字虫生津1445 Tel:093-291-1778 Fax:093-291-2728

E-mail:info@wks-co.com　http://www.wks-co.com

MIMM

ミーム

（未 夢）

道路トンネル検査点検専用車両

計測検査株式会社

北九州市八幡西区陣原1-8-3

TEL:093(642)8231

FAX:093(641)2010

http://www.keisokukensa.co.jp

モノづくり企業の事業所めぐり

賛助会員の情報交流コーナー

＜製品、技術、開発、人材などに関するPR←募集中＞

高野興産株式会社

平成22年12月14日、小林理事、重藤理事が同社本社工場を訪問、米窪専務からお話を伺いました。

■会社の沿革と業況

昭和48年に公害機器販売会社を設立以来、一貫して産業廃棄物処理事業を中心に事業を拡充。平成13年には北九州響エコタウンに進出し、溶剤リサイクルやプラスチック油化事業を行っている。

最近では、化学工場から排出される種々のアルコール類を高機能ブレンド機械（装置）を使ってブレンド、燃料化することに成功した。先月からテスト出荷しているが、安価でかつ品質も安定しており高評価を得ている。

また廃液再生の更なる高度化を狙って超過熱蒸気を使った分離方法を産学連携で研究開発中、完成も間近い。この方法は、廃液に含まれる水や溶剤、残渣等が瞬時に分離される画期的なもので、同社再生事業の中核技術として期待している。

■今後の展開と課題

今世紀、水不足が鮮明になる中、解決策として水の再生利用や海水の真水化がクローズアップされてきた。現在開発中の上記再生技術の早期完成と戦力化が課題。

■KTSへの期待

KTSには、新しい情報の収集・提供と企業が新産業を創り出すためのアドバイスを期待している。

本社

ひびきエコタウン

溶剤リサイクル事業

◇会社概要

■本社：北九州市八幡西区御開2丁目
TEL：093-691-2790　FAX:093-691-2743
■代表者：代表取締役　高野　真志　　■設　立：昭和48年5月
■資本金：1,000万円　　■従業員数：40 名
■事業内容：産業廃棄物収集・運搬・処理、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸﾏﾃﾘｱﾙﾘｻｲｸﾙ、ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ油化ﾘｻｲｸﾙ、溶剤ﾘｻｲｸﾙ、環境分析、ﾘｻｲｸﾙ原料回収等
URL　http://www.takano-k.com/

株式会社松島機械研究所

平成22年12月24日、影山理事と重藤理事が同社本社工場を訪問、松島社長からお話を伺いました。

■会社の沿革と業況

会社設立は昭和21年で平成22年に65周年を迎えた。戦後日本の復興に大きく寄与した石炭産業の洗炭選別機ボタ排除用ゲートの自動開閉装置開発販売が会社の基礎となった。

その後、石炭を運搬するベルトコンベアー周辺装置、製鉄高炉のほか穀物備蓄用サイロなど粉体や塊体、液体のレベル計、アクチュエータ制御機器の開発販売を積極的に展開し、かつこれらの設備技術を日々進化させる努力を社長・幹部が先頭に立って行っている。平成21年には、北九州市から第1回目の「北九州オンリーワン企業」として認定されました。同社が平成19年に国産化した「パルスレーダ式マイクロ波レベル計」に対する顧客からの高い評価が認められたものです。

■今後の展開と課題

マイクロ波レベル計の高度化とマイクロ波を利用したバリアスイッチやフロースイッチ、粉体流量計などに加えて摩擦電荷方式のダストモニタやダストスイッチの応用製品を展開することによって、顧客の多様なニーズに応えることを優先的に推進する。それと同時に伸張著しい東南アジア市場を開拓することにより海外売上比率を現状の20%から平成27年度には50%まで引き上げる計画である。

そのための人材育成、製品開発、コストダウンが課題です。

■KTSへの期待：課題解決のため多面的なアドバイス・支援を期待しています。

本社・工場

粉体測定・検出機器

粉体プロセスオートメーション機器

◇会社概要

■本社：〒807-0831北九州市八幡西区大字則松461
TEL：093-691-3731 FAX:093-691-3735
■代表者：代表取締役社長 松島　徹　■設　立：昭和21年1月
■資本金：3,500万円　　■従業員：120 名
■事業内容：粉体・液体用ﾚﾍﾞﾙ計、ﾍﾞﾙﾄｺﾝﾍﾞﾔ保護機器、電動式ｱｸﾁｭｴｰﾀ、各種制御用機器、ｼｽﾃﾑ装置、ﾚｰｻﾞｰ計測機器 等
URL　http://www.matusima.co.jp/

■会員・賛助会員の募集（当法人は、会員の会費で運営されております）

企業の第一線をリタイヤされた方の第二の人生を地域社会発展のために貢献・恩返してみませんか…?　皆さん方が持っておられる知識・技術・経験・人脈は、次の社会に伝えなければならないし、それは義務でもあり権利でもあります。これからが本格的な社会貢献の時期なのです。当NPO法人を利用して、地域社会の潤滑剤として役立てて下さい。

■会員・賛助会員の会費

・正会員入会金：5,000円／年会費：5,000円
・賛助会員（法人）入会金：10,000円
　年会費：20,000円／1口
　（個人）入会金：5,000円
　年会費：5,000円／1口

α：「中小企業における製品開発資金調達について」

（国や地方自治体が行なっている中小企業向け施策「助成金・補助金」を利用してみませんか?）

…**新製品開発は、**企業経営にとって重要な課題の一つです。そこで皆さん方も良くご存知の助成金・補助金などの利用を考えて見ては如何でしょうか。新年度が4月からスタートしますが、この時期を皮切りに公募が始まります。応募するには即準備に取り掛かってください、公募が始まってからの準備では間に合いません。ただ、書類をつくるのが面倒だと思っている中小企業さんの方も多いのではないかと思いますが…?その時は、当NPO法人にご相談下さい。

⇒**当NPO法人は、**70数名のシニア技術者集団です、その中から貴社ニーズに合った専門家が適切にサポート対応します。

北九州 TS

≪詳細情報は下記ホームページから≫

http://www.npo-kts.org/

賛助会員の申し込み受け付中

ホームページから申込用紙をダウンロードして下さい。
技術開発・環境経営の発展を支援します。

NPO法人　北九州テクノサポート
会報　「北九州テクノサポート通信Vol.16」
平成23年1月10日　印刷発行
●発行・編集：NPO法人北九州テクノサポート
北九州市戸畑区中原新町2番1号　北九州テクノセンタービル8F806号室
TEL/FAX：093-873-1453　E-mail：npo-kts@npo-kts.org

■重藤デザイン2011/01-1200